

1-2. 方針・配慮すべき事項

歴史的建造物や商店街の個性を引き立たせ、夜間においても開港からの歴史が感じられる光環境とするとともに、賑わい形成をより一層進めることにより、巡り歩いて楽しめる夜間景観を目指します

■個性的で多様なエリア ⇒ エリアのまとまりと、エリアごとの違いが引き立つ夜間景観をつくる

- 横浜中華街や山下公園通り、関内駅周辺、碁盤の目状の繁華街、北仲通北地区など、関内地区内の各エリアの歴史や個性を引き立たせるとともに、関内地区としての一体感も感じられるよう、調和し、これらのバランスがとれた夜間景観形成を目指します。
- 歴史的建造物が引き立つよう、その周辺施設の照明計画においては照度等に配慮することで、全体として落ち着いた日常の夜間景観の形成を推進します。
- 特に、影響が大きい高層建築の照明計画については、考え方の整理と、より丁寧なデザイン調整が必要です。低層部の賑わい形成を推進するとともに、周辺との調和についても慎重な検討が必要です。



歴史的建造物を際立たせるため周囲は照明を控えている（左：横浜郵船ビル 右：ホテルニューグランド）

■横浜港を囲むリング状のつながり ⇒ エリア間のつながりと変化を感じる夜間景観をつくる

- インナーハーバーのリング状のつながりやウォーターフロントの軸線の一部であることを意識して、歩行者空間としての一体感を意識して照明計画を立てることが必要です。
- 山下公園通りと海岸通りでは、沿道の建築物等の漏れ光や、足元を照らす照明等を推進し、ガス灯が持つ落ち着いた雰囲気損なうことなく、安全・安心で快適な歩行環境の実現を目指します。
- 山下公園には遊覧船の乗降場があることから、海側からの見え方を大切にするとともに、安全性を確保しつつ落ち着いた光環境とするなど、周囲の夜間景観を眺める視点場としての配慮も必要です。
- 山下公園通り沿いの建物の高層部は落ち着いたながらも海側に顔を向ける演出を目指します。
- 本町通りは、みなとみらい21中央地区や山手地区とのつながりを意識した夜間景観の形成を推進します。



開港の歴史を象徴するガス灯プロムナード（左：山下公園通り 右：海岸通り）

■複数ある内水面 ⇒ 水辺という立地を生かした夜間景観をつくる

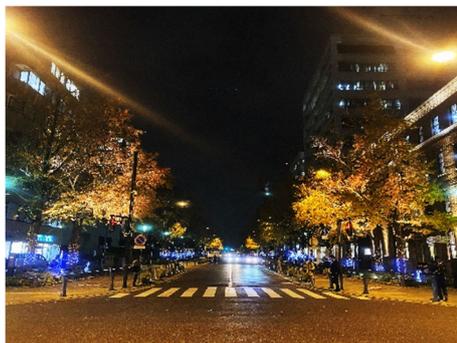
- 大岡川や中村川・堀川の川沿いに面するエリアでは、水面への映り込みを意識して演出するとともに、安心して歩行できる光環境を目指します。
- 北仲通地区や海岸通地区の水辺に面するエリアは、周辺地区からの眺望を意識した顔づくりを行い、建物の低層部は水辺のオープンスペースと連続した一体的な設えとするなど、魅力的な水辺の夜間景観の形成を推進します。



水辺に対して顔を向け、水面への映り込みを意識して演出している
(左：横浜市庁舎 右：ノートルダム横浜みなとみらい)

■海・港に向かう軸線 ⇒ 通りごとの特色を大切にし、海・港と街のつながりが感じられる夜間景観をつくる

- 水際線から内陸へ人の流れを促すよう、水際線と軸線との交差部分のデザインを、エリアの特性とのバランスに考慮しながら丁寧に検討しましょう。
- 歴史的建造物が多く建ち並び開港の象徴となっている日本大通りでは、歴史的建造物が引き立つような光環境とするとともに、景観重要樹木であるイチョウが美しく映えるような演出を推進します。また、横浜公園側と象の鼻パーク側の双方から通りの軸性が感じられるような演出を目指します。
- 中華街大通りでは、街路灯や店舗の照明等は中華街らしさを感じられるような設えとし、賑わいを演出しましょう。



イチョウが美しく映えるライトアップ
(日本大通り)



中華街らしさを感じられる街路灯と
イベント時の提灯演出 (中華街大通り)

- 馬車道では、照明の位置や向きに配慮し、開港直後の歴史を印象付けるガス灯プロムナードを際立たせる演出を推進します。
- みなと大通りでは、水際線と関内、関外をつなぎ人を誘導する新たな回遊軸として、夜間も人を誘導し、みなと大通りとしての特徴が感じられる夜間景観を目指します。
- ベイスターズ通り、関内桜通りやこれらに直交する通りでは、街路灯を統一するなど、街路ごとの特徴を感じられるような演出を推進します。



ガス灯プロムナード（馬車道）

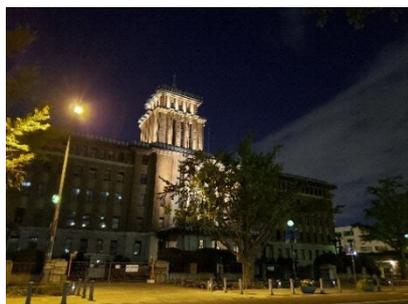


街路ごとに特徴ある街路灯（左：相生町4丁目、右：関内桜通り）



■個性あるシンボル ⇒ 横浜やエリアの個性の象徴として印象付け、「港町・横浜らしさ」を感じる夜間景観をつくる

- 横浜三塔などの歴史的建造物は、その構造や形態、色などの特徴を演出する夜間照明とし、魅力的に演出することが必要です。



神奈川県庁舎（キングの塔）



横浜税関（クイーンの塔）



横浜市開港記念会館（ジャックの塔）

- 中華街の門は、エリアの個性を象徴する建造物として、鮮やかな装飾美が夜間に浮かび上がるよう演出しましょう。
- 開港の地である象の鼻パークは、シンボル感が感じられる照明計画とします。
- 横浜マリンタワーは、かつての灯台として、関内地区だけでなく横浜港を象徴するような特別な照明計画とします。



朝陽門（中華街の門）



開港の地を象徴する象の鼻パークのスクリーンパネル



横浜マリンタワー

- 横浜公園は、関内地区の玄関口に位置し、市民が緑に触れる憩いの場として親しまれており、彼我庭園や春のチューリップなど見どころも多く、様々な目的を持った来園者が訪れる場所となっています。近代化産業遺産でもある公園の歴史性を尊重しつつ、夜間も公園利用者が安心できる光環境を目指し、来園者が散策を楽しめるよう、落ち着いたある夜間景観の形成を推進します。
- 山下公園は、海へ開けた眺望を楽しめる場所であるとともに、氷川丸やバラ園など見どころも多く、市民が憩え、多くの観光客が訪れる場所となっています。夜間も公園利用者が安心できる光環境を目指しつつ、来園者が散策を楽しめるよう、落ち着いたある夜間景観の形成を推進します。
- 大さん橋国際客船ターミナルは、クルーズ船の乗降場があり、インナーハーバーへの出迎えの空間となることから、海上や対岸からの見え方に留意することが必要です。また、安全性を確保しつつ落ち着いた光環境とするなど、周囲の夜間景観を眺める視点場としての配慮も必要です。

〈コラム〉 普及啓発やイベントによるカラーライトアップ

- 歴史的建造物等ではこれまでも、建造物の意匠や特徴に合わせて色味や光の当て方等を調整してライトアップを行ってきました。
イベント時においても、建造物の特徴を考慮し、色味や光の当て方については十分に検討することが重要です。また、平常時のライトアップとは異なるイベント時には、イベントそのものについてのPRだけでなく、普及啓発のシンボルカラーやイベントのテーマカラー等、カラーライトアップの色に込められた意味についてもPRをしっかりと行い、特別なライトアップの効果を最大限に発揮することが重要です。
- 事例紹介：神奈川県庁のブルーライトアップ
壁面の地の色を考慮した色味の青色、白色を入れ、照らす場所の調整を行うことにより、メリハリのついた爽やかな演出となっています。



神奈川県庁のブルーライトアップ

2. みなとみらい21中央地区



2-1. 地区の特徴

- 横浜駅周辺地区と関内地区をつなぐ場所に位置し、超高層ビルのオフィスや商業施設が建ち並び、業務・商業などの多様な都市機能が集積する地区です。近年では観光・エンターテインメント施設も整備が進んでいます。
- この地区ではこれまで、ランドマークタワーからクイーンズタワー、インターコンチネンタルホテルの一連に代表される、海側から山側に向けて高くなるスカイラインを形成してきました。また、海へ向かう軸には白系、それに直交する軸には橙系の車道照明を採用するといった、街区が大きいこの地区にふさわしい構造的な工夫がなされています。
- 同時に、低層部での賑わい形成や、歩行者デッキによる歩車分離などにより、歩行者を大切にしまちづくりを進めています。さらに、豊かな緑の空間づくりを行っており、キング軸やグランモール軸は地区の中の象徴的な軸であるとともに、憩いの空間にもなっています。

2-2. 方針・配慮すべき事項

スカイラインの強調や大街区ならではの構造的工夫、楽しく歩けるよう低層部の賑わい形成のための高質な夜間景観形成を引き続き進めるとともに、人を惹きつける街として、夜間においても、イベント等の特別演出などによる、より一層の賑わい形成と新たな魅力創出を目指します

■ 個性的で多様なエリア ⇒ エリアのまとまりと、エリアごとの違いが引き立つ夜間景観をつくる

- 海側から山側に向けて徐々に建物の高さが高くなる、地区の特徴的なスカイラインを夜間も認識できるよう、建物頂部を強調する演出を推進します。
- 建物低層部のカフェや店舗では、人の温かみを感じられる光を用いて、夜の賑わいを演出しましょう。
- 観光・エンターテインメント施設等では、周辺の光環境に配慮し、照らす場所を限定的にするなどして、おもてなしの空間を演出しましょう。
- 歩行者デッキでは、軸性を感じられる光環境の演出を推進します。



建物低層部店舗の人の温かみを感じられる光
(グランモール軸)



建物正面の壁面を限定的に演出
(びあアリーナ)

■ 横浜港を囲むリング状のつながり ⇒ エリア間のつながりと変化を感じる夜間景観をつくる

- 臨港パークなどの水際線では、安全・安心で快適な歩行空間を形成するため、足元を優しく照らすとともに、周囲の夜間景観を楽しめる視点場として、落ち着いた光環境を目指します。また、海側からの見え方を大切に、海への映り込みを意識した演出を推進します。
- 横浜駅周辺地区や関内地区からの入口では、歩行者デッキの連続する照明などにより、この地区に出迎える、いざなう光環境を推進します。
- グランモール軸は、横浜駅周辺地区とのつながりを意識するとともに、沿道の店舗からの漏れ光や、舗装に埋め込まれた夜光海パイプ（※）により、この地区ならではの賑わい形成や高質な光環境をつくとともに、安全・安心な歩行者空間の形成を推進します。
※夜光海パイプ：地面に埋め込まれた無数の光が漂うように明滅する仕掛け
- みなとみらい大通りと国際大通りは、東神奈川臨海部周辺地区やみなとみらい2 1新港地区、関内地区とのつながりを意識した夜間景観の形成を推進します。



沿道店舗からの漏れ光 (グランモール軸)



夜光海パイプ (グランモール軸)

■複数ある内水面 ⇒ 水辺という立地を生かした夜間景観をつくる

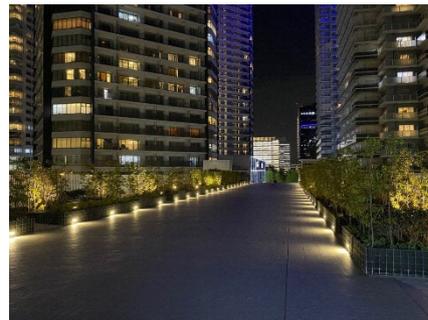
- この地区の周囲には多くの内水面があり、自動車道、万国橋、大さん橋国際客船ターミナル、ポートサイド地区、横浜駅東口周辺など、この地区を内水面越しに眺められる場所が多く存在します。高層ビルの面的で高さのあるあかりが水面に反射すると魅力的に映ることから、内水面越しに見られることを意識し、周囲からの見え方を考慮した照明計画を推進します。



水辺に対して顔を向け、水面への映り込みを意識して演出している（左：地区北辺 右：地区東辺）

■海・港に向かう軸線 ⇒ 通りごとの特色を大切にし、海・港と街のつながりが感じられる夜間景観をつくる

- キング軸では、樹木のライトアップや足元照明などにより、緑の軸線としての特徴を生かした、軸のスケール感を感じられる照明計画を推進します。



樹木のライトアップと足元照明（左：横浜グランゲート 右：キングモール橋）

■個性あるシンボル ⇒ 横浜やエリアの個性の象徴として印象付け、「港町・横浜らしさ」を感じる夜間景観をつくる

- 桜木町側のみなとみらいの顔として認識されているランドマークタワーからクイーンズタワー、インターコンチネンタルホテルにかけてのスカイラインは、夜間景観においても強調する照明計画を維持しましょう。



ランドマークタワーからインターコンチネンタルホテルにかけてのスカイライン

3. みなとみらい21新港地区



3-1. 地区の特徴

- 赤レンガ倉庫やハンマーヘッドクレーンといった歴史的建造物、新港ふ頭客船ターミナルが立地し、港町・横浜の歴史や港町らしさを感じられるエリアです。新しい建物も赤レンガ倉庫との調和を意識し低層・茶系の意匠となっています。
- 島状のエリアで、水際沿いを一周するプロムナードが設けられ、居心地の良い水際空間が形成されつつあります。周囲は内水面で囲まれており、橋やその周辺は、隣接する地区から当地区への玄関口として演出されています。
- また、港湾緑地を多く有し、遊園地やテーマパーク、結婚式場が立地するなど、イベント等のエンターテインメント性も高い地区となっています。
- 夜間においても、地区のシンボルである赤レンガ倉庫の雰囲気エリア全体で感じられるように、温かみのある電球色程度の色温度の光で演出するとともに、地区の内外から、島状のエリアであることを感じられるような工夫がなされています。

3-2. 方針・配慮すべき事項

港町・横浜の歴史的資源である赤レンガ倉庫やハンマーヘッドクレーンを引き立たせるとともに、これらと調和した夜間景観を基本とし、島であることが感じられ、夜間も訪れたいくなる賑わいや楽しさを体感できる街を目指します

■ 個性的で多様なエリア ⇒ エリアのまとまりと、エリアごとの違いが引き立つ夜間景観をつくる

- 自動車道から赤レンガ倉庫への通景空間においては、赤レンガ倉庫の周囲は落ち着きのある照明とするなど、地区の最大のシンボルである赤レンガ倉庫を魅力的に引き立たせる夜間景観とすることが必要です。
- ハンマーヘッドクレーンを象徴的に演出するため、周辺は落ち着きのある夜間景観の形成を推進します。
- 開港の歴史を感じることができる歴史的遺構は、地区ならではの存在として、その構造や形態、色などの特徴を演出する夜間照明とし、魅力的な演出を推進します。



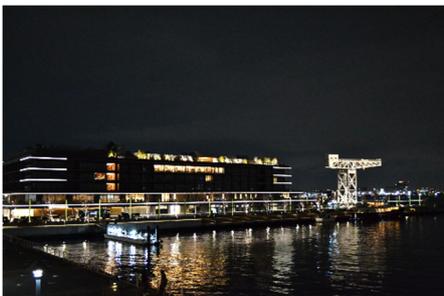
横浜赤レンガ倉庫を引き立てる演出
(自動車道からの通景)



歴史的遺構の照明演出
(旧横浜港駅プラットフォーム)

■ 横浜港を囲むリング状のつながり ⇒ エリア間のつながりと変化を感じる夜間景観をつくる

- 水際線プロムナードでは、安全・安心で快適な歩行空間を形成するため、足元を優しく照らすとともに、周囲の夜間景観を楽しめる視点場として、落ち着きのある光環境を推進します。また、海側からの見え方を大切に、水際線が際立つ光環境を推進します。
- 橋梁や自動車道では、隣接する地区から当地区へ、アプローチを強調する連続した光で誘うとともに、地区の特徴が切り替わるゲートとして特徴を生かした印象的な演出を行います。



海側からの見え方を意識した演出
(新港水頭客船ターミナル)



ゲート性の演出 (左：女神橋 右：自動車道)



■複数ある内水面 ⇒ 水辺という立地を生かした夜間景観をつくる

- 島であることが地区内外から感じられるよう、水面への映り込みを意識した光環境を目指します。



水面への映り込みを意識した照明演出
(MARINE & WALK YOKOHAMA)

■海・港に向かう軸線 ⇒ 通りごとの特色を大切にし、海・港と街のつながりが感じられる夜間景観をつくる

- 万国橋から海・港へ向かう軸線（新港三号線）では、ガス灯や関内北仲通地区の歴史的建造物を意識した高さでの光の演出など、当地区と関内地区とのつながりが感じられる光環境を目指します。



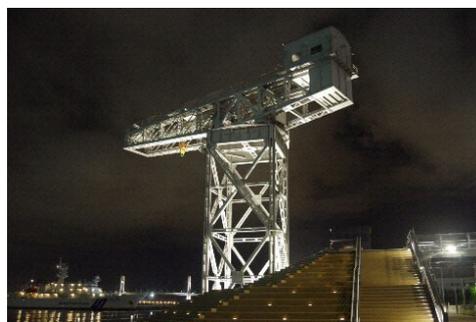
地区同士のつながりを感じられる照明
(新港三号線)

■個性あるシンボル ⇒ 横浜やエリアの個性の象徴として印象付け、「港町・横浜らしさ」を感じる夜間景観をつくる

- 赤レンガ倉庫やハンマーヘッドクレーンは、その構造や形態、色などの特徴を演出する夜間照明とし、魅力的な演出を推進します。
- 夜間のイベント時においても、赤レンガ倉庫への投影広告物等は海側からは見えないよう配慮するなど、海上や他地区から赤レンガ倉庫が象徴的に見えるよう計画しましょう。
- 新港ふ頭客船ターミナルは、クルーズ船の乗降場があり、インナーハーバーへの出迎えの空間となることから、海上や対岸からの見え方に留意することが必要です。



PHOTO by Hideo MORI



歴史的建造物を魅力的に演出するライトアップ
(左：横浜赤レンガ倉庫 右：ハンマーヘッドクレーン)

〈コラム〉 影響力のある光の演出

- 大きな面積や高い位置での光の演出は、インパクトが大きく多くの人に印象づけることができます。一方で、周囲に与える影響が大きいため、都市全体の中での景観的なバランスへの配慮や演出の質を保つことが求められます。
- 事例紹介：大観覧車「コスモクロック 21」
横浜博覧会で設置されてから 30 年以上経ち、横浜の景観の一部となっています。遊園地という、来街者をお迎えする施設として、夜間景観においても、みなとみらい 21 中央地区のオフィスビル群に華を添える形となっています。平成 28 (2016) 年には、フレームに設置された照明が LED 化され、環境負荷を抑えるとともに、演出の幅が広がりました。特別演出を行う際には、所有者のご協力のもと、横浜市とも協議を行いながら、より魅力的になるように考慮して演出をしています。



コスモクロック 21 の特別演出